

いっとうしょうぐう 一灯照陽

1人1人が自立へ向かって、光ろう！

579人がみんなで光れば、

灯中はさらに輝く！

福井市灯明寺中学校 指導部通信

発行 福井市灯明寺中学校

3月 1日

生徒指導部

令和5年度 第16号

生徒指導部より

3月の生活目標『家族・友達・学校・自分への感謝の気持ちを行動で表そう』

いよいよ、令和5年度も残すところ一ヶ月となりました。今月は、本年度を振り返り、感謝の気持ちを行動に移し、次年度につなげる月にしてほしいです。それぞれの学年について考えてみると、以下のようになります。

1年生・・・4月から後輩ができるという立場で今後の行動について考え、新学期への目標をもとる。

2年生・・・立志式を終え、一人一訓を心に刻み、義務教育最終学年と未来への心構えについて強い決意をもとる。

3年生・・・義務教育を終了し、一人ひとりが自分の進路に向かってしっかりした目標をもち、未来に向けて羽ばたこう。



【灯中っていいね！パート9】

☆2/11(日)に行われた北陸アンサンブルコンテストに福井県の代表として、吹奏楽部の打楽器五重奏チーム(2年生3人1年生2人)が出場しました。この大会はブロック、地区、県をそれぞれ勝ち抜いて出場したもので、今大会ではこれまでの先輩方を超えて、金賞を受賞しました！次は中部日本大会(長野)に福井県代表として、3/23(土)に出場します。

多くの人に感謝しています。時には厳しく、時には厳しく(笑)油断しないよう、指導してくださった顧問の先生、多くの人手がかかる打楽器の運搬を、イヤな顔せずすんで手伝ってくれた部員のみんな、応援してくださった先生方、家族…みんな

にありがとうございました。(チームリーダーの石田さん)



(朝日新聞より)

「中部日本大会直前まで、大会中も成長していきたいです。

私たちにしか出せない“空気”をつくります！」

大会を楽しんできてほしいです。頑張れ灯中！

☆2/1(木)に新入生入学説明会

がありました。1年生の実行委員は会場案内や学校生活紹介、先輩と語る会などで、すごく頼もしい先輩として活動していました。

また、グラウンドに100台近くの車が止まる予定だったんですが、除雪のあとの大好きな雪山が入り口にあって困っていたところ、2年生の男子達が「先生、俺らも手伝う！」と昼休みなのに、雪かきを頑張ってくれました。3年生を見て、本当に頼もしい1・2年生が育ってきていました。灯中っていいね！



【完全下校時刻 午後6時になります】

- ・自転車で下校する場合は、必ずライトをつけること。
- ・交通ルールを守ること。「もし車や人が出てきたら…」を想像し、すぐ止まることのできるスピードにすること。



【保健室から】お疲れさま わたしからわたしへ ❤️

「お疲れさま」といえば、がんばりや苦労をねぎらう言葉ですよね。この言葉を1年走り抜けた自分自身にも、かけてあげてください。

みなさんの体と心は、1年でたくさん動いたことでしょう。体を動かすと疲れたり、筋肉痛になったりしますね。でも、そして強い体がつくれられていくのです。心も同じです。喜んだり、悲しんだり、怒ったり…。たくさん動いた分、育つもの。それに疲れるものです。春休みには「お疲れさま」と自分に声をかけ、体も心もリラックスさせてあげましょう。



【先生のらくがき帳】～卒業・進級によせて～

☆楽しく生きることについて考えてみました

突然ですが、先生が好きな歌の1つに、さだまさしの『いのちの理由』という歌があります。深い歌で、先生は自分の結婚式のメイン曲に使ってしまったぐらい(笑)。その歌詞の中に、『私が生きてきた理由は…』とでてきます。自分でも考えてしまい、「一体何のために生きてきたんだろう…？」。いろいろあって、悩んでしまいます。

その答えとして、さだまさしは、【幸せになるために 誰もが生きてきたんだよ】と歌います。生きてきた理由を重く考えていた先生は、それを聞いて、なんだかほっとしたのを覚えています。

では「幸せ」って何なんでしょう？多くの人は「お金持ちになると」「うまいものを食べること」などと答えます。確かになぁと思います。でも人によって「幸せ」の定義なんてバラバラじゃないかなぁとも思います。実は、「幸せとは何か？」を研究している人がいます。有名なハーバード大学の学者達が75年間に渡って、「人間は何に幸せを感じるのか」をテーマに、数千人を追跡調査して、その答えが明らかになったそうです。その答えとは…何だと思いますか？

*

明らかになった研究結果とは、【いい人間関係が築けているときに、人は幸せを感じる】のだそうです。ということは、お金があって、高級なうまいものを食べるんだけど、「独りぼっちで食べる人は幸せを感じられない」のだそうです。お金はあんまりないんだけれど、心を許せる人が1人でもいる人は「幸せ」を感じられるのだそうです。



3年生のみんな。4月からの新しいステージでの生活。きっと新しい環境には知らない子だらけ。1・2年のみんな。クラス替えて新しいクラスメートと担任の先生。誰もが少なからず「友達…できるかなあ。人間関係が不安…」と思うでしょ。△△△



でも大丈夫。まずみんなには家族がいるし、灯中の仲間がいます。
それに、先生がかつてやった「高校生になった教え子 100 人に聞きました」の中の
「高校生になって不安なことって何ですか?」と問い合わせに対するアンケート結果でも、
「人間関係は大丈夫。新しい友達、よゆーでできる」って答えた人ばかりでした。
だから安心して。きっと大丈夫。

でも、どうしても苦しいときは、家族や灯中の友達、そして先生に、
＜思いっきり頼っていい＞と思います。

時には頼るし、時には頼られる人間関係がどこかにあれば、僕たちは「幸せ」であり続けられます。

*

*

そうすると、こう言う人がいるかもしれません。

「『助けて』って言うなんて弱虫じゃない？」。

でも先生は、深く気にすることはないとおもいます。【弱】という漢字の中には、小さいかもしだれど「羽」が入っています。だからこそ、飛べるんだよって、いつも思います。

それだけじゃなく、「弱虫」だからこそ人の心の痛みが分かるんだと思います。

強いだけで優しさのない人は、誰かを傷つけることの罪を理解しづらいはず。人の痛みに鈍感な人間です。

『助けて』って言える人は、「弱いからこそ持てる優しさ」を無駄にせず、誰かをあたためられると思うんです。

だから、どうしても困ったときには、<思いっきり頼ってイイ>んだと、先生は思います。

それが周りの人や自分自身の「幸せ」につながるんじゃないかなあと思うのですが、どうでしょうか。

*

おまけ：さだまさしさんの『いのちの理由』には、こんな歌詞も出でてきます。「私が生れてきた理由は どこかの誰かを傷つけて」「私が生れてきた理由は どこかの誰かに傷ついて」…生きている以上、そして完璧な人間なんていないんですから、私たちは時には誰かを傷つけたり、傷つけられたりして生活しています。知らぬ間に友達を傷つけちゃったり、親にひどい言葉を言ってしまったり。私たち親だって、イライラして子どもに辛く当たってしまって、あとでひどく後悔したり…子どもも大人でも心当たりがあるじゃないですか。それも「生れてきた理由」なんだと、さださんは言います。

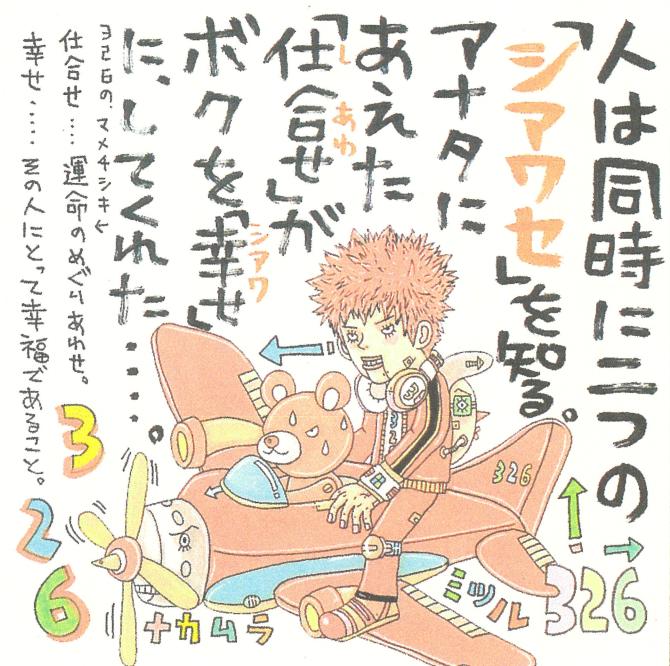
それは『そういう経験をすることで、仲直りの仕方や傷ついた友達や家族の励まし方、大好きな人の心の振り向かせ方を学べるんだよ。そういう経験を通して、「自分さえよければいい、樂しければいい」の行動が人を傷つけることがあるということに気づいたり、人の痛みを（100%は無理でも）理解できる人間に成長したりできるんだよ』と教えてくれているのかなあと思います。

でもこれらには数学みたいに正解や公式はない、自分なりの答えを一生かけて探し続けていくもの。

だからそんな経験のできる、家庭・学校・社会での、この先待っている、多くの人の関わりを大事にしてほしいなあと思います。

その上で、この先みんなを待ち受けている、うれしいことも楽しいこともしんどいことも、誰かを頼り、誰かに頼られながら、『乗り越える力』をみんなでつけていくといいね。それが真の「自立」だと先生は考えます。

興味が出てきたら、この歌、一度聞いてみてください。



(「326 ナカムラミツル作品集」より)